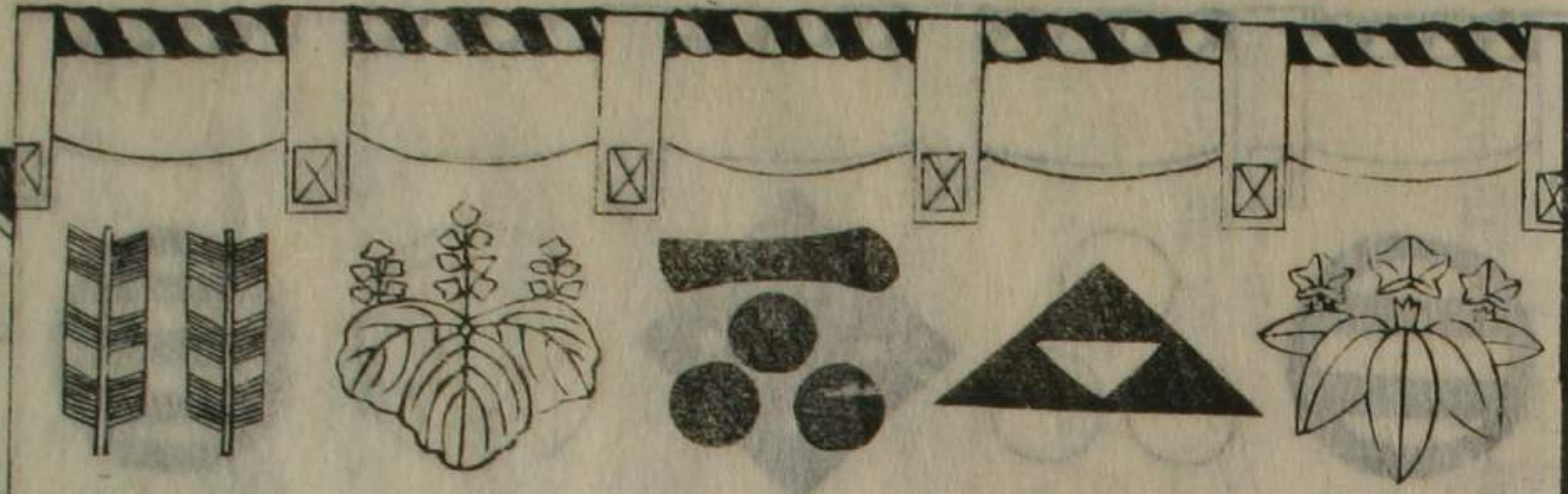


〜遠13
2208
4



門へ遠13
2208
卷 4



星月夜顯晦録初編卷之四

目次

城四郎永茂謀逆御所へ逼て院宣を乞

狐老翁と化し宝劔を餐院又と圖

城四郎永茂院の御所へ乱入の圖

星月夜力備録之四

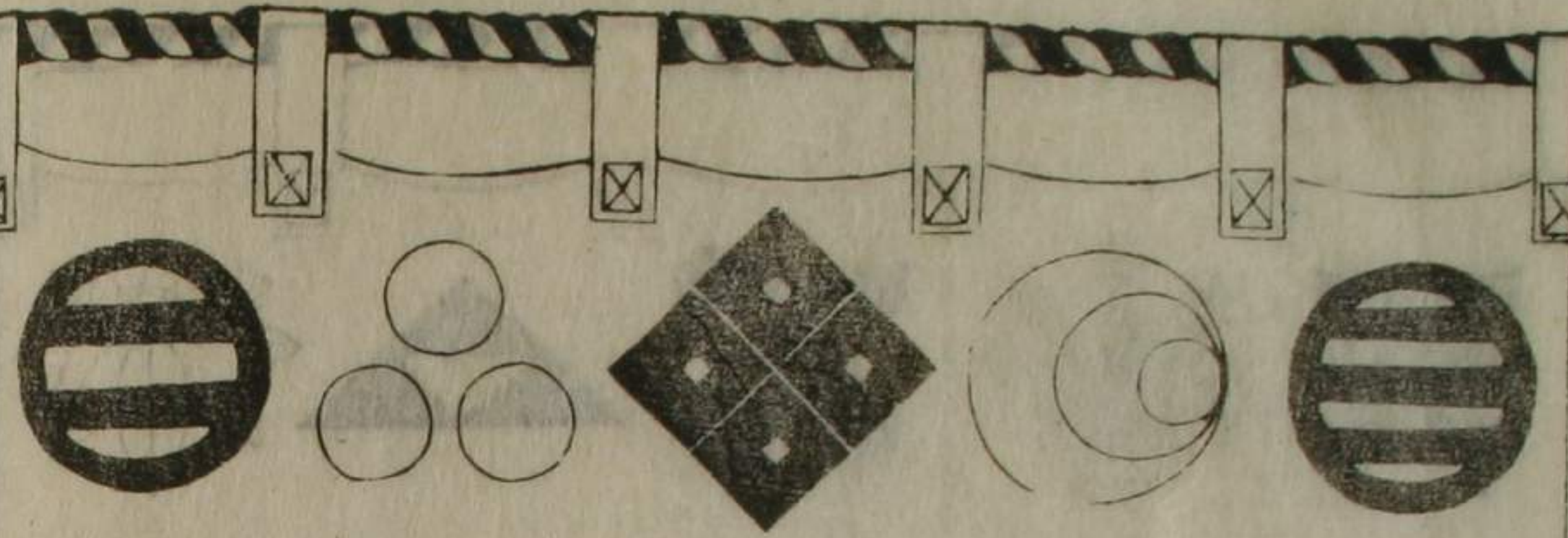
永茂吉野山は自叙城小太郎鳥坂の塔は龍

吉野の元徳城四郎永茂を生擒圖

佐々木盛綱入道賊後へ進發の畧

佐々木入道鳥坂城攻坂頼女勇戦

鳥坂城攻寄手對陳の圖



星月夜顯晦録初編卷之四

城四郎永茂謀逆御所へ逼り院宣を請

星之親長君前へ出京都のやと木村信実少高名長保を引具

信實を引具。藪々々。早速百生え先達々番場忠太を討取け度

所を賜り長保を戮せし。信実が面目又盛綱一族を討取け度

を討取け度。感入るゆへ種々武道の信義を殘し。僕も恨み欠良

應々。後信実江州へ歸り忠訪私る。子孫相續し。建武乃比



佐々木定綱が子孫佐々木佐渡判官不随ひ尊氏公へ忠功をばす。数代の家名を失せざるを願ふ。叔提原が残黨亡びて静謐を望む。頼家卿の謙倉繁栄の中は成人。下の辛苦成る。追従を乞ふ。朝暮遊兵と恥ぢる。忠臣の心を悼む。人々の時を乞ふ。君遣はし。他を遠く己を榮んとす。此の諸臣互に疑心を懐く。君臣の不和をせむ。然るに人海を履の懐ぬ。呉子と謂主將不徳。形勢智恵あり。族々又由乱を起し。軍の出る。夜安んじ。恐怖の心。年々暮正治三年とす。春改元ぬ。建仁元年。号と然る。果ては當春謀反の賊乱を起す。その友は越後國の住人。城四郎永茂といふ者あり。城太郎。平資長が弟あり。かえり。

桓武天皇の後胤金吾惟茂朝臣七代の苗裔なり。惟茂三男出羽城に繁茂と号し。三歳の時、赤松を食む。惟茂悲歎。限る。天狗の爪をふりや。諸山諸社は初形。普く尋ねる。知はる。年月遇る。四の夜。狐塚の辺。又來すと。惟茂曰。日世あらま。至る。塚に住む狐若翁とま。小児を伴ひ待居。惟茂大に悦び。子細を問ふ。老翁云く。これ小児を養ひ。四年頗教を授く。返り。又刀一腰。小児とよへ別。か。伊老翁と見へ。惟茂奇異の心。家々伴ひ。頼信敏達武勇智謀。又祖と増。成人の名。出羽と号し。武勇。授け。力。謀反の計。殊伐。小神の風。儼て。數勲功。終。府。軍。任。威。四。海。輝。人。兼。又。心。深。横。川。

聖月夜力備



楓老翁と
室
繁茂江

星月夜力備



源氏上人惠か修於又依一往生極楽の要路を求毎日法を修八抽を
 精進一。五常の道は達せ大なるし。子孫お統く。件の刀を重宝と
 傳ふりし。繁茂より四代城九郎資國を嫡子城守郎資永は鑓
 ぎを。才城四郎永茂丈七尺又餘。万夫不當の勇名あり。次男
 也。永茂は鑓りし。資永易く。とどて。又の斗ひ。是非多く。修
 打る。如壽永元年木曾を仲を殊戮。と命を承けり。合戦の用
 意をる。如一戦あり。又。忽ちと急病。死せり。と件の刀は
 離る。由と拜し。言才城四郎永茂は平家亡く。後囚人となり。
 藤倉より下向。権原系時。又。居り。少。是る。勇士の。頼朝
 御。一命を助け。下領を。任。は。後。征代乃
 所供。武功を顕。と。足。感。見。資永が嫡男。城小太郎資

盛の中遺跡を嗣。あ。人。紙。後。國。坂。又。住。内。列。一。君。思。は。然
 頼朝が薨去の後羽林家の。才持。宜。う。う。然。然。單。多。永
 茂時節を。と。甥の資盛。と。外。の。一。族。亦。は。謀。反。を。ま。め。源。平。の。西。氏。へ
 國家の守護。と。近。比。や。甲。乙。を。帝。は。肩。を。並。し。今。源。氏。の。家。人
 とい。稱。せ。ら。る。先。祖。の。耻。辱。武。門。の。汚。此。上。有。一。當。時。羽。林。の。才。持。源。家
 の。執。職。と。富。は。あ。り。此。虛。と。平。と。る。成。紀。一。院。宣。を。乞。清。源。倉。を。止。
 平家一統の世。は。武。名。未。世。は。輝。え。と。丈。丈。夫。の。卒。さ。る。は。や。ま。ま
 取。ら。う。ア。せ。し。一。族。郎。從。大。は。以。満。る。欠。る。は。清。盛。天。下。を。堂。平。握。
 平家の世。盛。る。と。源。氏。の。あ。る。や。の。に。代。り。頼。朝。東。方。よ。り。旗。を
 揚。ぎ。平。家。を。下。源。氏。の。世。は。當。時。繁。榮。平。家。の。世。は。四。倍。せ。り。
 一。則。欠。乏。の。時。節。と。平。家。數。を。い。く。よ。り。由。後。倉。草。創。と。し。や。二

十餘年及ぶ。今頼家嫁酒は長し。國を尋ねて昏弱の時。一
 滅亡を遂げ。瑞雲の疾く。ひまのつと。城四郎永茂の勇を
 心を交へ用意不及。わくと永茂一族へ。城の都より。強倉征
 伐の院宣をのり。平初。先京の守護人。亦を討取。小次郎資盛は
 當國は根城を構。平家譜代の軍を招き集め。合戦の用をば。こ
 音信を相待。べと。やたら。資盛い。も。後。是れ。法勢を集
 ぬ。其の年。若年。不依。人。帰伏。東は。右。當家の守。と。如
 曩祖。繁茂。野干。より。搜。し。名。叙。人。の。知。不。ま。れ。ば。是。を。平。し。て。招。集。入。り。
 帰伏。せ。ど。と。不可。者。也。た。視。又。資。國。叔。父。へ。讓。り。上。の。裁。家。と。し。て。
 叙。り。若。平。家。再。興。の。大。志。中。へ。皆。く。右。の。刀。を。其。の。以。て。調。ひ。後
 の。必。ず。返。し。も。と。ん。と。と。永。茂。を。と。り。あ。ご。も。秘。藏。の。刀。に。時。も。

を放ぬる。資盛が所。予。難波の群。ええ。如。城九郎。資國。少娘
 あり。永茂が妹。資盛が叔母。より。坂額女と。居。し。女。も。れ。ど。力。絶。す。法。く
 兄。永茂。より。方。ら。ぬ。勇。猛。の。生。質。も。由。武。術。は。熟。練。を。容。顔。甚。醜。頗。繁
 若。の。面。は。似。く。色。珠。は。黒。く。し。う。と。仕。年。及。ぶ。た。縁。辺。の。沙。汰。り。今。年
 三十一。歳。自。ら。丈夫。は。耻。づ。る。法。刀。は。嫁。娶。の。り。代。と。せ。ど。奇。代。の。女。性。の。か。
 資。盛。示。す。兄。が。難。波。の。群。を。見。て。早。に。向。ひ。男。子。の。一。言。を。し。て。予。は。彼。刀。は
 於。て。の。嫡。家。相。傳。の。例。え。ん。ば。彼。は。傳。え。を。理。る。べ。し。又。資。國。兄。へ。讓。り。れ。
 ぬ。今。亦。持。し。ぬ。軍。勢。僅。僅。と。小。す。り。ぬ。あ。ら。れ。ば。彼。が。予。を。伊。せ。暫。く
 頼。け。ぬ。ん。と。む。こ。彼。又。叔。父。の。名。刀。を。押。領。せ。し。め。り。と。練。る。あ。ぞ。今
 ハ。否。か。刀。を。資。盛。に。頼。け。その。身。ハ。一。族。小。次。郎。資。盛。三。郎。次。又。示。す
 伴。ハ。上。治。り。刀。を。離。せ。ハ。永。茂。が。運。の。足。り。討。殺。と。後。あ。ぞ。尋。ね。れ。り

當年春正月城四郎一族郎亦百余人京着せし者人竹の友
 をあつて不審ゆゑの如く元來勇猛後倫の永茂也と云ふ事ある由及ハ
 され其然人の疑を受く妨りりと先郎亦を幸し洛中を伺せり。
 今日ハ帝仙洞へ行幸し依り守護人供奉し警固の武士多く排
 徊せしむる。又届注進も夫を屈竟るん天子仙洞は渡せり。
 推系しと宣言を請受べし守護人亦妨をるる事とて我々の
 謀あり當時勤番しと在洛の中は小山左衛門尉朝政勇謀の者
 るれば彼が宿亦は押あて攻りし朝政供奉の先より死ねり。そ
 外の軍由周章く多く近所んと我ら川邊く仙洞の川更死系
 一。是非く宣言次乞ふと即時は東洞院朝政が旅館に近至り。
 小次郎資家三郎資政を大乃とく百人を以て朝政が亭へ籠衣りせ。

四郎永茂百人を引連二条と三条の間河原表に屯し透を以て仙
 洞へ移ると拒り小山左衛門尉朝政へお摸守惟茂を代り。旧冬より上洛
 一禁中を守護する事あり今日も行幸の供奉を勤め佐木左衛門
 尉定綱諸とも仙洞は疾く多か正月廿三日未の刻斗ふ資家資正百
 人の士卒を以て。朝政が守り押あてり又箭を放ちたり由。道中
 残し亦亦僅に三十人斗ふ事を見ても又驚れり。元來朝政も智勇無
 備の武士也。郎亦も勇兵多く敵を以て天石を落し命際も防我ら
 俄の事とゆひ。竹の由も多し。先郎の然人教導見證し。郎亦仙洞へ
 なる由も朝政もを。何者の所為も人怪也。供奉の役を終り退出
 する由も奉承も多し。けり。法皇の歡望も達し殊も驚き。朝
 政も兵隊も狼籍を許さず。定綱も主上を供奉し。禁中へ還幸し

そとと自勅定ふ依り。朝政を供養の表束との候あり。序亦一連
逸系又馳漏る。倭木定綱ゆつと案よるが。主上の御車より流し
内裡へ供奉致訪多し。時又城永茂る。小山が宿所へゆり。氏少く。百人
の兵を。法皇の御所へ馳移る。主上還幸の跡あり。御所を
る武士。残居る如く。阿修羅王の荒る勢ひあり。御所へ入。四門を
閉せり。青侍た又は強引止んやうあり。とまひ。又人と
の折居。御倒し。御座所の階下は推系し。美支の候あり。侍美の
居るも。その残る府將軍。惟茂の末裔。彼後國の住人。城四郎平
永茂君の爲天下の爲。美支と大り有る。系上せり。高より。ゆり
く。残るも。慄震ひ。出合人も。ゆり。如く。頭辨種。行朝臣。侍美
せ。ん。び。の。不。禮。を。る。え。由。知。れ。と。思。ひ。ま。が。り。何。の。の。美。支。と

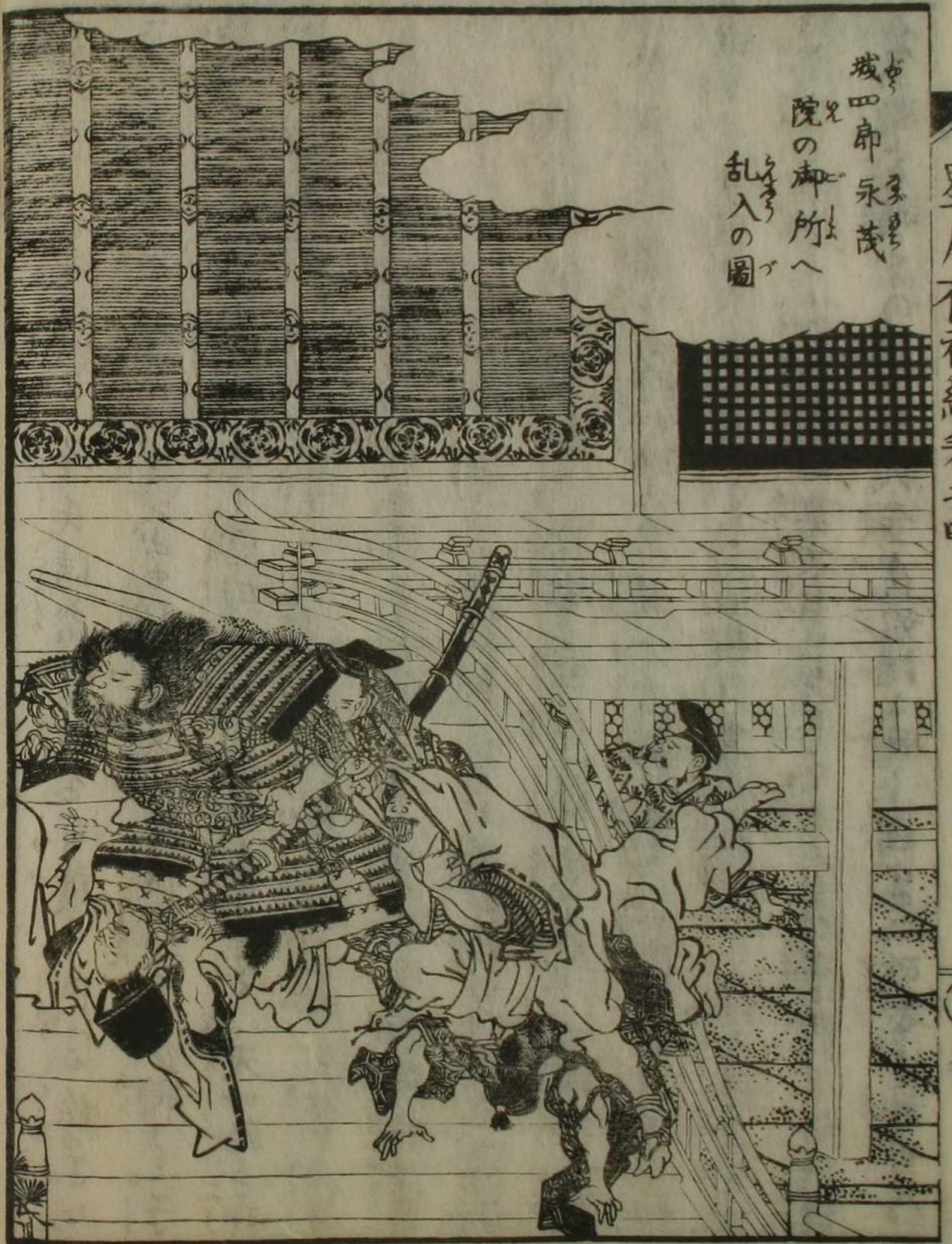
ヨシノ久し。永茂ゆり。平氏。清盛。禁廷を守護。四海を治る。此
二十余宗。不赦の罪あり。功勞も。又かく。ゆり。憎。子
孫。及び。氏族。悉く。滅亡。當時。源氏の武威。盛なり。一天四海を
領し。比。目。漁。倉の。奴婢。等。清盛の。権威。校。當時を。从。往。す
を。思。ひ。平。相。國の。我。從。由。罪。を。入。へ。と。某。金。吾。將。軍。惟。茂。の
未。終。と。して。平。氏。の。血。脈。を。続。當。時。の。形。勢。を。承。り。忍。さ。君。の。爲。万。民。の。爲。
國。の。會。衆。首。の。社。を。雪。ん。と。後。倉。を。殊。伐。し。逆。罪。を。犯。し。以。前。の。國
家の。政。を。改。禁。中。の。山。法。を。其。亦。右。勅。を。抽。り。皇。都。を。護。り。四
海。を。平。治。致。さんと。欲。を。終。と。り。微。力。を。以。り。終。り。依。り。後。倉。追。討
の。院。宜。を。下。し。右。勅。の。士。を。集。不。日。又。兵。を。揚。んと。存。推。系。は。る。所。之。後
倉。の。頼。家。將。との。墨。の。穴。を。夜。姪。酒。を。長。く。國。家の。政。勢。を。捨。世。乃

源氏物語の編纂

源氏物語の編纂



城^{ちやう}四^し郎^{らう}永^{えい}茂^{しげ}
 院^{いん}の御^ご所^{しょ}へ
 乱^{らん}入^{いり}の圖^ず



乱まんと眼前より。秋も早く永茂が奏はし随ひ院宣をよびぬと。
板敷の邊にまゝと高音はゆつた。種経理不そ奏はしとや。豆はさる
が永茂が形想は懼と止す。法皇の敷慮は遠せられは。梶原が
るの意をさしひれば。大切の秋もれば容易は針はひぐさ。後目かやうべ
と勅定ありまを。永茂憤怒の辭を現し。此中唱答大音あて。勇主
まては。支旗を揚んと志し。宣言次第逆敵を討んと。謀の亦は。後日
待はる。亦は。奉まを。逆より。結り。朝家又忠をあらんと。某
を源氏の逆臣ホえん。させる。宣言代場は。ぬよ。あそ。い。い。づ。と。死。に
を。た。命。忽ち。朝敵と。う。う。く。敵。を。此。亦。曝。や。べ。と。確。と。白。眼。を。威
奉る。あ。ぞ。法。皇。を。始。ま。り。在。合。之。御。ま。り。亦。忠。を。驚。た。る。ひ。い。づ。と。斗
ひ。能。く。と。と。公。を。痛。め。ん。折。る。小。山。を。り。尉。胡。政。は。見。前。宿。所

は。死。な。り。敵。後。の。法。より。討。つ。り。資。家。資。正。を。追。散。ら。し。る。か。は
所。の。先。き。り。ま。直。は。川。邊。の。如。城。四。郎。永。茂。仙。洞。は。推。多。し。四。門
と。ど。よ。用。狼。藉。な。る。か。の。う。告。る。り。早。速。謀。を。安。未。し。う。り。此。公
大。音。上。城。四。郎。永。茂。謀。反。を。企。一。族。即。ホ。胡。政。が。宅。を。襲。と。以。ども。
先。を。討。つ。り。此。後。賊。將。二。人。後。兵。三。十。餘。人。を。討。死。残。兵。約。方。を。知
む。此。公。先。失。ぬ。完。早。用。を。及。ば。早。く。門。を。開。く。と。い。ひ。し。く。永。茂
大。又。驚。死。謀。と。あ。る。と。資。家。資。正。ホ。討。死。せ。り。と。公。狼。唄。居。ら。由
希。し。且。此。院。宣。を。す。め。る。あ。も。及。び。先。奉。國。へ。ゆ。ら。ん。と。公。俄。は。門
を。開。け。出。ん。と。さ。る。か。他。の。門。より。出。ば。逆。出。し。と。笑。ふ。族。由。の。人。表。門。を
開。け。向。の。奴。原。を。打。拂。つ。通。し。んと。百。人。を。一。処。に。集。め。表。は。門。を。左。右
不。知。し。大。波。の。起。る。か。と。一。周。を。り。出。ま。り。胡。政。家。來。ま。下。知。し。然。と

道を因らるゝ永茂も後ら合戦を好ぶるゆへ道の関に父ん入。未
向ひせと辭くと引退れり

永茂吉野山より自殺城小太郎鳥坂の城より

小山が郎亦追討せんとす。朝政初て追はせ必死の覚悟あり。在るを
知れ。門より立出。是を敵討とす。穴を却て。猫を咄の誓士率
多く捕らふ。彼逆臣うれは。妻勢を双不日征せん。誰かや。由亡らるる。
御所の守護を肝要とせ。脱悟し。門内へ入。永茂退去仕由上る。は
法皇。教慮浅く。人種短と云。朝政の功を賞し。由い。朝政。心入り。某宿
下。此處より。進徒散乱し。退去仕。由。所。云。く。川。返。し。外。四。門。悉。く。因
狼籍の由。彼を偽り。生え。謀。畧。す。敵。將。を。討。死。と。す。り。謀。は。す。り。
退き去。知。れ。く。い。ち。上。り。且。び。い。ち。も。け。い。い。と。す。り。教。感。の。り。お。る。は。佐。木

定綱父子内裡より。此れ。謀。反。の。張。本。城。四。郎。永。茂。定。之。奉。國。へ
立。寄。り。ゆ。え。と。存。江。州。の。郎。亦。下。知。を。は。さ。せ。り。推。追。手。次。に。は。を。
後。に。は。朝。政。に。く。祛。ゆ。を。か。し。と。去。ら。る。今日。洛。中。騷。動。の。事。
され。討。手。を。殺。を。分。き。跡。を。一。殘。黨。蜂。起。せ。ば。防。禦。成。難
し。ん。京。都。の。守。護。を。肝。要。と。せ。永。茂。と。は。謀。反。を。企。て。も。何。条。の
ま。り。ゆ。え。今日。の。振。子。湯。金。火。鉢。ん。の。と。飛。脚。を。主。唯。く。京。都。を
守。護。し。る。ゆ。へ。洛。中。靜。謐。よ。る。必。ず。此。時。四。郎。永。茂。は。奉。國。城。後。の。人。と。
實。家。資。正。が。便。厚。も。れ。と。云。せ。く。や。京。を。地。に。逃。江。に。お。れ。佐。木
定。綱。が。早。打。の。あ。せ。ま。ら。る。二。男。佐。木。信。綱。及。郎。亦。木。村。信。實。見
と。即。時。は。道。を。さ。一。塞。だ。激。を。研。待。け。一。城。四。郎。永。茂。勇。ま。り。と
之。ち。の。僅。の。人。数。も。く。下。の。敵。兵。を。討。破。し。ん。と。せ。り。い。つ。と。と。素。に。父。の

不見江州を通ると社をいひく。伊賀路より大和國へ出し入隨ふ
 郎木も頼まうと名をいへ。道より失せし主君五人とす。に
 由鬼神を欺り、城四郎も細く多し。今も浮世の身も後
 果く、後本國へ帰るとも、貧家資正を討せ。我の母も家の族
 不面の合さる。臆病も一族を見殺し。跡見じと。あられんも口惜
 と。彼を切り胸は迫り。吉野へ入る出家せん。のち先代の坊主至
 まで。あつぐのうし中入る。早先達と京都より。永茂が余れり。九
 登山せん。所出べし。手合合ぐ。彌生せ。抱抱とあえり。下敷の
 由。吉野の元後等を捕えと斗し。うごも言ふ。守え。勇士万一暴
 出さ。死亡の者数多。出さ。宣く欺り生捕え。一山中入。先
 永茂を請。慇懃の旗枝より。出家の度。不若神妙とす。

執事の坊主入。と。永茂偽と。あつぐ。少し
 安堵のち。元後が。切を。後國を討し。今日
 中。配疲。一時。忘。地。楚の項羽。法。鳥
 江の死。平の將門。勇。永。害。道。皆。天。道。遠。人
 が。城。四。郎。已。が。勇。敢。を。憑。ま。謀。の。企。を。遂。行。を。傾。ん。と。世
 う。ご。も。小。山。朝。政。が。一。時。の。謀。言。を。欺。と。奉。國。中。帰。り。今。吉。野。の。元
 後。を。頼。ま。う。と。家。せん。の。志。始。の。美。気。も。似。身。も。更。又。大。丈。夫。の。才。り
 め。と。昏。愚。智。の。族。を。匹。夫。の。勇。と。云。く。元。後。永。茂。を
 生。捕。人。と。思。ふ。永。茂。を。刺。髪。と。後。後。と。休。見。せ。ん。と。乞。ふ。元。後
 本。内。く。詳。美。と。俗。の。形。又。在。を。ら。擲。出。と。卒。と。入。入。道。を
 と。捕。人。と。い。ふ。こと。さ。の。中。あ。り。出。家。さ。せ。し。も。捕。る。と。肝。要。之。針。畧。の

為りて杖を中へ出ん。竹糸よりゆりん。且お終ふ時を授け。渡せ
ハ後悔のしん。二丈せり。その俗の傳めたる力も存ぶ。とて杖
ホ群糸。殊勝丸。規式を調へ。永茂が髪を刺青。同く。受
戒法令の明日の沙汰。今宵より快く休め。且出家。刀の字。血
うり。と練め。善王堂へ納せ。永茂大に悦び。今の如安。何の
用も。其後。折臥。寝。杖。密。鬼の法。杖
奪ひ。此上。示。合。先。四人の郎。木。何。別。間。休
せり。一山の腕。悪坊。我生捕らんと。集。一。間。集
下入。老。僧。を。制。血。氣。を。騷。動。せ。同。を。覺。せ。る。と
め。唯。一。山。の。手。柄。と。一。人。の。功。を。毎。日。と。下。下。下。と。て
屈。竟。の。惡。僧。十。人。を。先。進。め。跡。より。三十。余。人。の。若。僧。力。を。派。先。改。へ

蒲團を切り押へんと。三人あり。兩年。西。夏。又。四人。づ。八。人。脚。を。押。ゆる。者
二人。以上。十三。人。力。自。慢。の。者。亦。合。せ。一。同。に。推。う。り。杖。森。入。る。永。茂。が
半。足。改。を。二。時。は。取。押。と。ば。雙。の。力。士。う。れ。ど。森。公。の。ひ。切。返。さ。ぬ。も
面。料。を。蒲。團。と。包。と。眼。え。え。ど。声。出。せ。と。繩。を。懸。り。と。と。る。の。是。非
も。見。決。め。之。杖。亦。返。り。起。ま。ば。永。茂。眼。を。活。と。又。関。也。一。山。由。願。う
る。年。の。聲。を。上。の。下。斯。由。我。を。欺。く。何。あ。ゆ。一。び。出。家。を。遂。げ。る
ま。と。り。ける。奉。勅。更。は。法師。の。西。行。に。非。ど。汝。亦。形。と。法師。な。れ。ど。も。を。と
畜。生。外。道。の。方。い。奴。も。但。仏。の。法。よ。う。の。教。も。あり。や。言。結。は。終。る
惡。僧。ども。一。時。殺。し。ら。ま。え。と。り。け。り。ど。も。半。足。千。筋。の。繩。は。纏。り。動。く。と
ろ。と。な。れ。ば。齒。を。嚙。り。し。眉。毛。逆。立。て。念。の。涙。玉。の。ぞ。怒。り。罨。り。て。止
ま。り。や。老。分。の。礼。徒。進。み。出。汝。怒。を。息。く。禁。を。怨。と。う。れ。一。天。四。海



吉野の衆徒
城四郎
永茂
生擒圖

星月夜力編



星月夜力編卷之四

王土よあふべとひふとまら。神社仏閣も王命不遠のり。いづる安穩るるこ
を以ては汝朝敵とらう。當山よあふ。此る先達と京都より。ま方の
勿論余れより。登山せが擲出と。一の勅發と。是れ我か背と。あふ
まののこされども當山よあふ。さる者も。此方ふ吟味と。遂と眼親ら
まの名字上の。道一返えと。遠勅の罪あり。叔又出家と。擲一の汝が武
勇のまもまの。一山人數より。とりとも汝が別強と。懼と。手次下えと。い
のほは汝又出家せられ。休と。と刺髪を急と。止と。汝が
る。我は汝が自業自得怨を請べ。た。あは。今世の王命の重
らう。猥猥と。及ら。未と。あ。必と。善智識と。る。と。せ。と。究
の悪念を。永劫と。言因を。時と。と。教諭と。永茂と。忽と。悟と。
一言と。怒と。散と。むの一言と。汝と。我運命の。其方達と。怨と。と。

あつと。改と。汝と。頼と。と。あ。此勇士の面縛と。る。社辱の
才一我日。此る。伏。言と。終る。今。纒。を。ひ。京。余。渡。は。え
。未。代。武。名。の。汚。ら。う。や。か。入。道。と。は。は。終。と。令。を。惜。と。と
指。の。心。念。る。れ。汝。我。を。害。と。首。を。京。都。へ。送。ら。う。と。我。ら
未。來。來。仏。と。是。非。此。假。送。ら。ん。と。る。と。念。の。塊。魄。山。止。り。忽。ち
悪鬼と。ら。う。と。山。中。を。え。教。と。空。土。と。ら。え。ん。大。夫。空。泣。の。悪。念。送。ら。へ。と
と。我。を。惡。逆。道。と。導。す。も。善。道。と。對。し。も。唯。此。返。言。と。あ。う。と。除。と。と
演。説。と。は。花。徒。木。底。を。惑。と。落。涙。と。及。び。る。か。法。師。の。罵。り。と。首。打。と。出
ま。の。難。法。之。勇。士。名。を。惜。ん。と。の。頼。を。受。入。と。さ。る。も。情。を。終。上。の。汝。が。傳。と
解。ん。る。潔。く。切。腹。と。し。我。ら。の。京。都。へ。擲。と。働。及。が。生。捕。と。社。と。山
中。又。自。害。を。遂。し。の。首。を。送。ら。う。と。五。べ。は。汝。が。勇。美。を。惑。と。誠。心。と

双刀針の如きものと云われ、永茂大に恨み、永茂亦情、永く志之の如きこと。
 三由儀、一ツより、永茂亦主、禁を解、為王堂、又納し、双前の刀を、永
 茂亦へ、永茂緒、肌脱、永茂の、手す、腹十文字、又捺切、又惜を
 僧、又頼ん、も、死の、毒、うと、ま、る、刀を、直し、首、又押、め、曳、中、一
 声、う、り、前、又、打、取、又、死、に、定、初、の、め、り、人、あ、り
 ぬ、根、大、大、感、感、致、し、法、切、の、首、を、え、て、京、都、へ、上、せ、る、永、茂、先、年
 後、倉、生、捕、と、珠、せ、る、右、幕、下、彼、分、勇、敢、を、惜、せ、ぬ、助、命
 せ、れ、ゆ、ゆ、刀、の、守、獲、よ、る、如、此、衣、の、刀、資、盛、又、上、洛、せ、し
 家、名、の、滅、と、さ、瑞、相、之、叔、由、此、時、京、都、の、城、四、郎、奉、圖、し、る、事、あ、り
 ん、と、祥、美、の、中、二、月、廿、三、日、吉、野、山、の、執、行、す、昨、廿、二、日、城、四、郎、山、せ、り、伏
 捕、ん、と、も、彼、自、害、せ、り、首、送、り、な、る、と、云、れ、り、張、奉、の、永、茂、討

上、上、死、き、は、と、安、堵、す、彼、首、を、渡、し、門、の、木、と、鼻、此、各、滋
 倉、往、進、を、終、る、永、茂、が、一、族、小、次、郎、資、家、三、郎、資、正、兩、人、の、さ、は、小、山
 初、改、又、討、散、され、永、茂、と、一、亦、あ、り、ん、と、思、ふ、は、終、身、と、思、ふ、京、近、辺、は、忍
 び、居、る、が、永、茂、討、と、る、尺、半、軍、を、は、討、死、せ、ん、と、再、び、黨、を、集、め、
 清水、の、辺、に、在、り、往、進、の、者、あ、り、す、小、山、初、改、佐、木、小、次、郎、廣、徳、亦、官
 軍、兵、引、く、清水、又、額、々、資、家、亦、各、系、出、る、清水、坂、又、合、戦、し、四、人、は
 不、討、死、し、る、ゆ、へ、京、都、保、平、治、し、強、倉、一、所、多、く、又、後、國、あ、り、
 城、小、次、郎、資、盛、鳥、坂、不、城、郭、を、捕、へ、平、氏、の、殘、黨、浪、の、軍、々、の、外
 梶、原、亦、沮、せ、り、餘、を、拒、れ、集、め、終、城、不、及、が、如、小、國、の、軍、追、て、加、ら、
 その、勢、五、十、余、人、と、る、り、資、盛、大、に、恨、み、上、洛、せ、ん、と、思、ふ、如、永、茂、又
 後、吉、野、へ、り、肢、之、の、郎、亦、一、人、遁、ゆ、京、の、根、子、吉、野、あ、り、の、次、弟、一、と

物語我々四人を後亦追搦の是を勢又叶ひがら。三人の山を離れて
 自害し其の大死見らる。奉國志も勢敵一人ありと討て死せんと
 此上の才知と存命ぬと告る処。近江路より迎ふ所。資家資
 直が手より後ひ一族追く通ぬ。永茂始一族とて討て一旨明ふ
 知はたれ。資基大を教養を杖持とも頼み。永茂の討死殊に院宣乃
 亦亦も空しくるべし力を盡し亦大死來せんとす。既謀反の
 久あつたは終城の根子鉄人の知る殊に永茂が上。その一族安穩
 金見んやうるべし必死を究討手來るはたかく合戦をば勝利せ。京
 都へせめ入院宣を中清源余と衝を争んと大膽不敵の不答火定
 が味方。此段中合め命惜かりん面々の速に退城し某俱に死せんと
 其の斗止し。百騎が一騎に討てさるるとも。其の死すも全く勢の衰

おをむとせざるこやなれば。後榮を測りてせし。並ひひそく逃去。航し覺れ
 浪入るる。逃出さる由頼ももるれば。一日ありとも。森食を安くし。快く死
 せんと思ひ止り。必死の軍勢三千余人。堅固に終城し。そのりる。健氣あも
 び。死す。是は依り佐渡越中の内。亦あは。た。を。あ。族。高。名。手。柄。を
 影いさんと。越後の國は押さ。鳥坂の城を責るといふ。も。屈強の要害は死を
 將びる者。三千余人。終一と。なれば。の。時。の。灘。を。披。散。り。討。て。漂。ふ
 処を。見。ぬ。討。て。出。る。猛。愼。し。或。時。の。不。幸。な。夜。は。な。く。あ。の。陳。を
 燒。押。し。變。化。し。防。死。多。し。家。半。毎。を。放。軍。討。て。者。殺。せ。る。今
 八中。く。力。あ。ら。び。強。愈。への。注。進。雪。の。飛。か。正。此。時。強。愈。あ。の。先。進。て。永。茂
 仙洞。推。ま。せ。り。根。子。注。進。せ。り。も。強。愈。強。動。大。く。な。り。兵。軍。將。を。こ
 向。ら。し。と。評。定。め。る。処。は。小。山。佐。木。が。飛。奔。追。て。到。り。京。都。靜。盪。の。注



佐々木盛綱
入道 武後へ
進奏
の
旨

進永茂兼首の上の軍勢突向のて城止るるといふ。安堵るは如く。四月
二日。越後の國の早打到馬。城小左郎資盛鳥坂の城郭を播へ謀反
を企及す。近國の武士強向て戦へ。城兵強く。多手放軍。侍らうに
告ぐる。あむ。強倉再火騒乱。のあむ。思且ぬ者由る。此注進。依り。北
条遠江守時政。和田左衛門尉茂盛三好。属入道。信亦。賊徒。殊。伐
の聲。左右。多る。當時。世上。静る。と。い。れ。ば。む。用。公。ま。し。左。強。倉。の。勇。士。一。人
より。也。化。亦。出。え。と。終。る。ら。む。資。盛。討。半。の。將。を。左。國。の。軍。小。命。に。征
伐。せ。し。む。下。誰。を。抑。せ。め。んと。終。る。ふ。越。後。越。中。佐。渡。又。終。る。は。勇。士。は
時。も。も。蓋。す。と。出。此。度。注。進。の。根。子。を。案。さ。る。ふ。資。盛。等。兩。の。敵。の。ゆ。べ。
渠。數。代。彼。國。に。在。り。地利。は。遠。く。鉄。人。由。旧。恩。を。や。め。べ。る。れ。親。附。の。黨。系
ま。う。と。も。坂。の。要。害。の。尤。然。由。必。死。の。賊。徒。三。千。余。人。と。い。は。れ。ば。近。國。の

鉄士。故。軍。由。多。理。う。り。去。る。ら。む。の。形。の。注。進。の。天。命。は。背。く。の。城。打
捨。並。に。自。滅。せ。ん。と。必。せ。り。唯。傍。軍。の。威。は。ほ。の。り。近。國。を。侵。し。又。上。洛。せ
と。企。は。諸。人。の。患。少。う。ん。早。く。征。せ。ん。ば。の。ゆ。べ。と。い。は。れ。上。野。國。佐
木。三。郎。蓋。綱。入。道。西。念。當。時。在。國。と。是。を。將。と。甲。斐。信。濃。の。軍。兵。後。へ
伐。り。め。は。必。定。勝。利。と。い。は。れ。と。名。此。強。志。と。交。定。し。け。段。上。と。い。は。れ。が。於。家。々。に
教。書。を。う。り。下。され。雜。式。里。長。に。使。あ。り。進。せ。り。里。長。四。月。五。日。上。野。國。後
辺。の。々。西。念。が。領。地。と。是。門。前。近。く。る。時。折。節。西。念。法。師。不。用。か。て
化。出。し。為。宅。の。路。次。に。行。遇。急。る。り。と。て。に。教。書。を。さ。し。出。し。門。前。あ。り。進。せ
り。見。ま。る。ふ。資。盛。が。謀。反。於。城。也。蓋。綱。入。道。甲。信。兩。國。の。士。を。催。し。不。日
小。逆。徒。殊。戮。と。い。は。れ。目。を。射。る。れ。ば。流。す。と。懷。中。に。委。細。領。掌。し。ま。る。直。に
是。より。馳。向。べ。し。と。い。は。れ。門。の。傍。に。立。り。鞍。並。馬。引。家。を。射。り。打。せ。り。

家来方 頼朝 統と去捨く。鞭を加へ、越後の國へ進發せし。里長を遣ふ。一交を忙し、一交を感し。遙く越後へ討手候。門前を統内へ由入らば、傳出せし。思ふに似れども、君命の重き守るに底比。るに大臣と歎息し。後金引返す。此時益綱入道が、越後へ。郎平、驚を周章。さるものも取敢て。追々、地有主人に向ひ。ゆるれば、わんわん、あつら出し。あつら切の討手。れが、用素の上進發ありん。その傳向ひ、あつらひの。中、益綱静め。思ふに、あつらされしと、疎る。小西念の、笑ひ。我入道と、いふも。老老に至る。いづれ、兼忽の、挙動。さる、勇士の、残物。統。主人を、義り、送洋。さる、いづれ。賊へ、越後不在。何ぞ、爰あり。さる、いづれ。昔天慶年中、將門奉國、謀反を企る時、宇治民部、忠文を、从て。追討使と、定む。忠文宿願、在る。指し、向ふ。此、宣下を、笑。著を、授

捨糸内、節刀を、後、及宅、不及。即時、進發。勇士、乞を、奉。之と、我、不肖の、才、あり。撰、不、致。討手、候。暫時、も、懈。さる、非。と、答。る。と、郎、平、大に、感、伏。主、後、探、不、探。急、る。

佐々木入道鳥坂城攻坂額女勇戦

あつて、益綱入道、途中より、郎平を、甲斐信濃、兩國へ、馳し。如、教書、の、趣、知。國中、觸、知。め、各、軍、勢、を、引、率、し。不、日、越、後、國、鳥、坂、に、其、長、を、由、り、送、り。その、才、ハ、三、日、の、中、を、坂、に、馳、せ。が、敵、城、の、振、子、を、伺、ひ。陳、を、固、免、其、軍、勢、の、長、到、を、待、居、り。此、時、後、金、の、雜、式、里、長、翌、六、日、の、夜、に、及、志。小、西、念、が、清、を、上、直、門、前、より、何、の、用、を、あ、ら、わ、ら、せ、ば、越、後、の、國、へ、進、發、仕。聊、廉、忽、の、人、と、物、語。成、美、益、感、歎、と、云、く。右、美、益、の、勇、士、と、入、道、を、下。君、は、仕、恩、報、を、賜、ふ、の、ハ、等、の、時、用

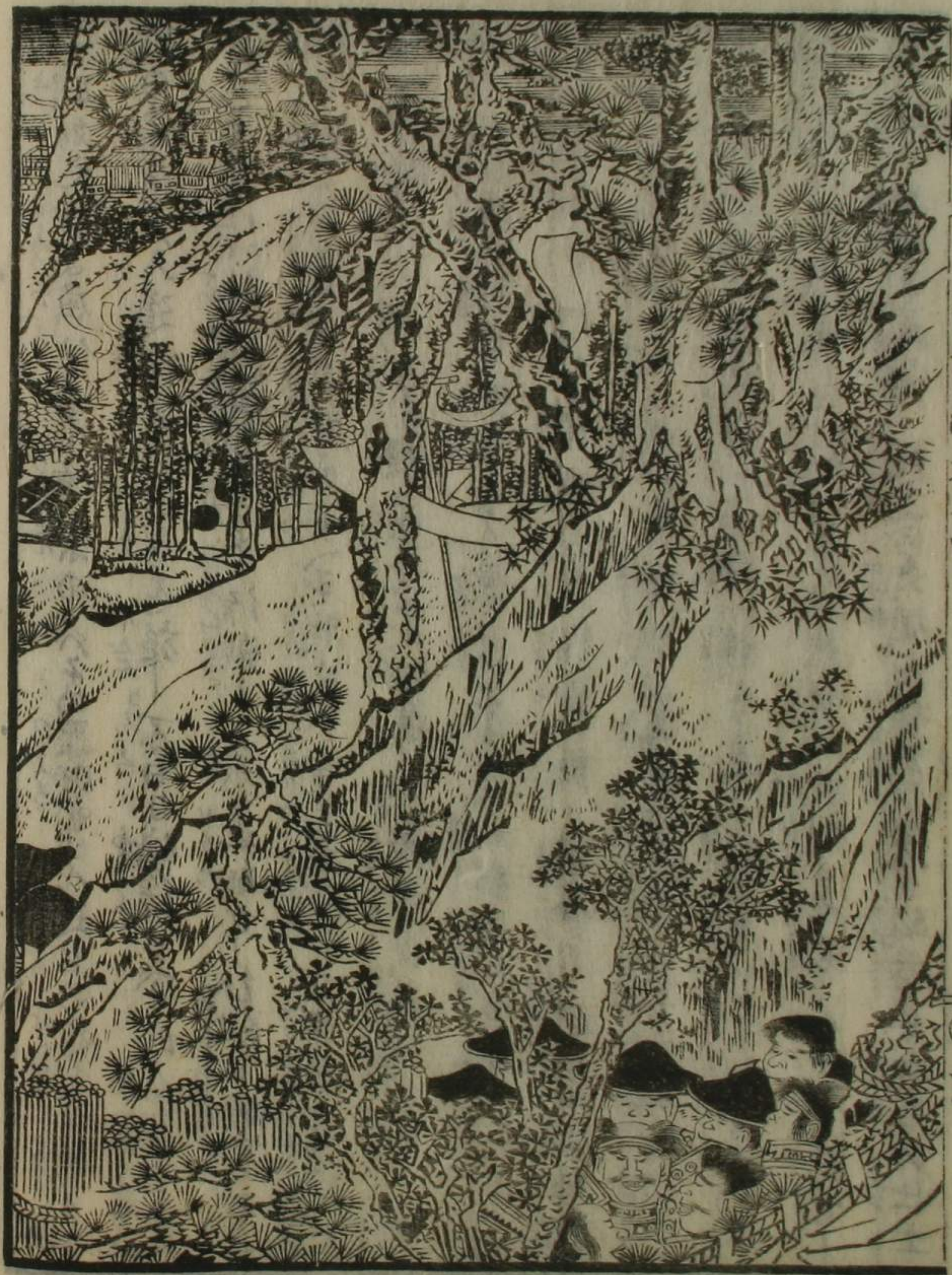
まん為之。大令を著り、鳥人せしむる。大羽がめとるれば、強軍自ら勇
 む。盛綱居北より。多坂迫其路。遠之。路次の間をくつ。根のたまも土合し。
 何ぞ。兼忽と云べし。西念法師が。不始をくつ。近日吉左右住進あつと
 頗不感賞。しと止さじ。叔由佐々木三郎兵法尉。盛綱入道。西念を坂イ
 陳を張。洪勢を待たし。信濃國住人海野小左郎幸氏。義次郎。信濃
 村上判官仲借。甲斐國より。武田五郎信光。浅利与市。多達を始め。此
 一門の輩。迫我もくと。近き程。よその勢。一万余人。よるび。資益方へ使
 者を。みく。ヤキ。アタ。ハ。辺平家の氏族。とく。ハ。敵對。る。せ。の。由。先年
 珠せ。と。古。居。憐。愍。せ。助。命。せ。る。の。の。ハ。奉。願。を。あ。り。安
 樂。よ。住。ま。と。厚。恩。山。の。正。法。が。宜。く。な。を。す。報。惠。不。始。ふ。べ。し。何。を。あ
 違。さ。紙。企。て。國。民。を。苦。せ。糸。非。法。を。不。依。る。西。念。命。を。不。依。る。と。違。

を問如之。速又屈伏。降系のふその罪。近日の。傍利。又。幕。合
 戦の。ん。入。道。俗。家の。武。畧。を。施。す。不。日。又。踏。淺。ま。す。此。旨。返。答。兼
 らんと。入。た。れ。款。將。資。益。益。を。作。裁。る。糸。兼。承。せ。し。但。願。の。り。又
 依。り。思。ふ。背。の。由。其。理。を。女。に。我。家。の。金。吾。將。軍。より。相。統。へ。二。代。茲
 守。府。に。補。せ。る。源。家。頼。家。義。家。此。職。より。源。平。氏。姓。何。う。方。る。や
 の。ん。益。衰。へ。須。更。天。命。あり。零。落。さ。る。由。然。を。必。せ。身。心。へ。う。ら。ん。
 況。や。先。祖。より。傳。り。の。領。地。や。朝。家。へ。對。し。不。忠。あり。然。が。何。を。頼。朝
 の。恩。と。い。ふ。今。茲。城。を。取。る。會。統。の。義。を。必。家。之。と。又。武。門。の。奉。之。
 更。又。私。の。正。為。の。ゆ。傍。利。と。時。の。運。は。下。大夫。一。旦。士。志。し。る。如。平
 う。中。道。より。廢。ま。れ。比。辺。亦。た。後。會。の。奴。隸。を。身。心。を。覺。悟。せ。し
 如。之。早。く。城。返。す。為。す。用。意。の。六。根。を。振。早。と。返。答。を。血。氣。の。壯。士



星月夜力編卷之四

六二



星月夜力編卷之四

九一

大は怒り。そは縁あり。押寄り一時は承破と名を延生えん。と云ふ。又西三
 制。敵の悪口ハ味方を釣らん。謀斗。三平又足る。小勢。大軍。敵せん。と云ふ。
 謀める夜之。殊更要害の城郭。お終る。敵を侮らば。改軍。祝眼前。唯
 下知を待つ。と云ふ。合め。先手合る。佐々木入道。味方。一万余人を。二王。分
 ち。飯の城。は押寄る。城中。兼く。放つ。と云ふ。矢尾を。搦へ。近。敵と。射
 落え。と待。つ。あ。子。進。と。あ。え。と。と。入道。制。唯。城。を。眼。守。て。矢
 一筋。由。突。せ。と。敵。の。所。移。を。伺。ひ。居。る。盛。綱。ハ。元。其。勇。猛。あ。り。あ。の。海。を
 渡。し。進。む。程。の。將。る。れ。ど。も。数。度。の。戦。場。は。別。進。退。の。音。悪。を。知。る。也。等。困
 の。乃。ば。さ。り。城。兵。ホ。ハ。あ。子。近。づく。を。待。つ。と。も。穀。を。す。め。さ。る。也。か。一。退
 屈。出。と。る。然。え。と。資。盛。の。叔。母。坂。額。女。が。の。と。あ。子。眼。は。餘。る。大。軍。あ。て
 入。合。の。ハ。軍。兵。大。多。く。必。勝。の。利。を。量。る。る。と。思。ふ。又。は。あ。て

却。く。敵。を。破。り。ん。と。あ。の。味。方。あ。一。討。り。出。戦。を。交。へ。敵。ハ。食。身。也。早。と。一
 上。ハ。身。入。せ。ん。と。追。ふ。人。其。外。を。櫓。り。射。手。は。撰。ぐ。箭。を。放。つ。か。仇。矢。一
 筋。由。の。う。ま。い。あ。子。優。く。退。ん。ぬ。を。再。び。討。つ。出。征。破。り。は。傍。利。疑。ひ。の。じ。と
 孫。吳。ハ。術。を。極。め。射。と。速。多。く。決。勢。大。に。感。じ。味。方。の。女。帥。と。さ。る。と。云。ふ。
 小。太。郎。資。盛。を。支。叔。母。坂。前。の。謀。畧。と。の。ち。も。終。る。味。方。大。軍。空
 固。の。伎。又。打。つ。敵。ハ。真。中。に。取。込。り。と。容。易。に。上。る。と。終。る。と。云。ふ。後。は。さ。ら
 抜。退。た。城。中。ハ。入。控。を。し。る。と。云。ふ。と。敵。早。く。身。ハ。防。敵。の。術。を。し。り
 名。を。あ。せ。と。ん。ハ。叶。ふ。と。云。ふ。坂。額。女。打。笑。ひ。口。才。城。家。の。男。子。あ。り。世。は
 一。羽。去。め。の。う。る。幼。少。より。兵。書。を。学。び。何。の。為。か。や。と。ん。せ。る。れ。ど。も。男。子
 不。社。と。頼。り。書。を。解。し。兼。て。孔。明。陣。を。か。兵。書。を。明。か。し。軍。ハ。勢。の。奇
 妙。よ。り。大。敵。を。思。は。し。小。敵。を。侮。ら。ば。味。方。の。勢。を。一。致。し。敵。の。氣。を

伺ひまふ應一畧策を施まふ。今日の軍もあひ大勢ゆ味方を侮り
 二を三よりよんとよめられ。是を射まんと用まふ。待とよ。敵思ま
 近よ。味方の謀斗お遠せり。よろ。敵の氣を奪ふ。變お。敵の
 我をよえ。又小勢小く包れ。退れ。危く。人を。己をよ。居ま。城亡を待と。も死せん。命る。何々。敵を打破。未世。武名を。残え。士の大。女。自ら射と。出味方を。つ。彼。小。即。某。射と。土。の。當城の將。出。三百人を。二。城門を。押。打。即。城外。出。三。別。我。一。同。死。出。敵。射。矢。我。射。魚。公。を。亂。通。敵。の。板。子。を。何。我。を。

急を城中へ入る。諸勢川上も。暮。敵。防。味。終。橋。を。大。門。を。因。此。臨。斗。策。有。敵。兵。近。射。矢。金。射。手。強。隱。一。その。時。射。主。必。れ。下。その。後。敵。階。斗。畧。之。と。下。知。を。は。その。黒。髪。を。と。捷。上。重。形。の。ど。く。出。主。紫。威。の。體。は。兎。の。鞞。の。四。方。手。は。猪。射。北。國。雙。の。糟。毛。る。名。馬。を。打。多。う。長。刀。を。う。込。大。門。を。開。三。百。人。と。喚。叫。て。近。射。三。手。は。敵。を。進。近。づ。盗。細。法。師。の。今。朝。一。合。戦。を。城。を。守。り。居。る。あ。仕。士。ホ。イ。中。攻。破。んと。卯。刻。一。午。の。刻。や。て。矢。を。握。く。在。々。が。敵。城。門。を。開。く。を。見。と。や。押。出。と。我。射。魚。と。の。主。を。盗。網。廉。忽。と。う。ら。む。故。を。圍。く。動。と。下。知。る。内。は。賊。兵。と。や。あ。ま。く。矢。を。射。や。け。若。武。者。堪。々。盗。網。が。下。知。を。待。心。

こそ同じく矢を發し合戦を初る城兵もさうなれば。包んで討つれと。
 先陣三十斗勇を進入せし。馳向ふ坂額女下知をつと。三百余人を長
 蛇の形に立直し。さうらら真先に進む。長刀を振舞ひ。乱れおこす。
 中へま一文字を近入る。近づく輩當を幸ひ。切つて。突進し。その利を
 正金剛夜叉の流すごとく。馬前より向ふその疵を受ざる。悔いあひの兵
 此勢より所を冷し。中伏用く通し。坂額女はさうと存り。左へつと。比拔
 幾とをさす。引上ると相手をさす。味方長く備へ。後陣を先陣とす。
 探り。引上る。あひ大軍する。小敵は近き。是れ利死七半。負多れば。諸士
 大に怒り。退く味方を立直し。城兵を追討んと。後より追はむ。大將益細
 せ。益の幾は士卒を討せ。公怒り。例の法勇を發し。味方を制する。火止も
 せ。益の幾は士卒を討せ。公怒り。例の法勇を發し。味方を制する。火止も

城近しく追来る坂額女味方をさす。大羊川終る。百騎斗ひ。さす。橋を
 我ど。益を引入せんと。唯一騎。長刀を水車に振舞ひ。追来る兵を引手
 見る。横さす。馬を飛し。先陣の中へ。近入。手先は在合馬武者二騎。を
 長刀の切先と石突ふ。引。馬より下へ。加はす。飛多のど。近通る。さ
 怒り。堪え。あ手の兵。敵一人。中を破。是れ附入。ま。せん。とも。あひ。坂額
 女を討取んと。聞き。けれ。

星月夜頭録初編卷之四畢

